

授業概要

毎日、当たり前のように使っている言葉も、実はその仕組みが分かっていないことがある。例えば、「コトバ」と声に出すように言われれば、何も考えずとも発音できるが、その時に実際どうやって音が作られているのか、意識することはほとんどないだろう。発音に限らず、自分の話している言葉をじっくりと振り返ってみると、面白い「気づき」があるはず。一番身近な「言葉」について考えるきっかけになるよう、言語学の基本的な考え方を講義する。

授業計画

第1回	言語学とはどんな学問か・言語学の歴史
第2回	音声学1（どうやって音を作っているのか：母音と子音）
第3回	音声学2（どうやって音を作っているのか：日本語の音と英語の音）
第4回	音韻論1（どのように音を区別しているのか：いろいろな「ン」）
第5回	音韻論2（どのように音を区別しているのか：アクセント）
第6回	形態論1（音が集まって意味のある言葉ができる：名詞）
第7回	形態論2（音が集まって意味のある言葉ができる：動詞）
第8回	意味論1（言葉の持つ意味とは何か：「走る」と「駆ける」の違いは）
第9回	意味論2（言葉の持つ意味とは何か：反対語について考える）
第10回	統語論1（どのように文を作っているのか：主語と述語）
第11回	統語論2（どのように文を作っているのか：受身と使役）
第12回	統語論3（どのように文を作っているのか：日本語のいろいろな決まり）
第13回	語用論1（どんな時にどんな文を使うか：笑い話について考える）
第14回	語用論2（どんな時にどんな文を使うか：円滑なコミュニケーションのために）
第15回	授業のまとめと期末試験について
第16回	筆記試験

到達目標

言語学の基本的な考え方を一通りマスターする。それによって、自分が使っている言葉について、自分で考えることができるようになる。

履修上の注意

講義形式ではあるが、言葉に対する「気づき」を大切にしたいので、積極的に臨んでもらいたい。日本語話者であれば、特に前提となる知識は必要としない。

予習復習

予習復習の必要はないが、その回の授業もしくは次回の授業の内容に関係した課題（クイズに近い）を、随時、提示する予定である。ただし、提出は求めないので、次の授業まで、日常生活の中で少し気をつけておいてもらえればよい。

評価方法

期末試験によって成績をつける。期末試験は、授業で学んだ知識を確認する問題とともに、言葉について授業を通して発見したこと、あるいは疑問に思ったことなどを自由に書いてもらう設問を含む予定である。

テキスト

プリントを作成して配布する。